

## 【地域活性化フォーラム】

# 住み続けたいまち岡崎市の SDGs 達成に向けた取り組み —介護普及 キャラバン隊—

愛知学泉短期大学 木村典子

## 要 旨

介護の魅力度調査を若者、介護職員に行った。若者である学生は介護をやりがいや資格・専門性を行かせる仕事で、社会的評価のある仕事であると考えていた。介護の職場体験をしている学生の方が介護によりイメージをもっていた。介護職員は介護の魅力を多種多様な人との「出会い」があり、そこから、新たな「発見」や「成長」ができ、「ありがとう」によって、「笑顔」がある職であると答えた。若者へは介護の正しい知識の普及、地域の方へは介護の魅力を伝える活動を行った。

### 1. 緒言

厚生労働省「介護人材確保に向けた取り組み」では、2025年に必要な介護人材数は約245万人と推計している。少子化、介護イメージの低迷などによる介護職の担い手は減少し、介護福祉現場において、深刻な問題となっている。

岡崎市においても介護事業所における人手不足は深刻となっている。岡崎市の人口は385751人で、65歳以上の高齢者は91686人(高齢化率23.8%)と、増え続けている。一方、年少人口、生産者人口は減少してきている。(令和3年6月1日)岡崎市の要介護認定者は14512人で、65歳以上の要介護者率は16.0%である。全国と比べ、要介護率18.3%に低めとなっている。岡崎市の要介護認定者のうち、後期高齢者が12519人で、28.8%となっている。(令和2年9月1日)今後、岡崎市において、75歳以上の増加に伴い、要介護者数が増していくことが予想される。岡崎市において、介護を必要とする高齢者が増えるが、高齢者の介護を支える世代の人口が減少していく中、人材の確保が課題となる。国連が取り上げるSDGsの「3 すべての人に健康と福祉」が揺らぐ課題となる。岡崎市は人材確保のため、外国人、潜在的有資格者など就職促進、職場環境、イメージアップを図る取り組みをしている。

介護イメージアップに注目してみると、取り組みはあるが、その効果を検証している研究は少ない。介護は人間関係を基盤に、福祉・心理・社会・医療的など幅広い知識を統合しておこなっていくものである。しかし、介護のイメージはメディアによるものが大きく、介護について知らない状況で、ネガティブなイメージが作られている。進路として介護職を志望しても、親や友人など、周囲から止められるといった調査結果がある。そのため、人材確保のためには多様な世代における理解が必要となる。

本研究では介護の魅力を調査し、福祉教育の一環としてより効果的な発信方法を考察し、幅広い人たちへ介護の魅力を発信し、介護人材確保につながる取り組みを見出すことを目的とした。

### 2. 研究目的

介護の魅力を調査し、福祉教育としてより効果的な発信方法を考察し、介護人材の確保につ

ながる取り組みを見出すことを目的にする。

### 3. 研究方法

- (1) 若者が抱く介護の魅力度調査 (web 調査)
- (2) 介護職へ介護の魅力調査 (自記式アンケート、インタビュー調査)
- (3) 若者へ介護の理解を深める活動① (カードの活用、介護のキッチンフレイズ作成)
- (4) 若者へ介護の理解を深める活動② (高齢者施設で高齢者と学生の交流)
- (5) 地域の方へ介護の魅力を伝える活動 (岡崎市元気館にて介護の魅力の樹、介護エッセイの提示、SNS の発信)

### 4. 結果と考察

- (1) 若者が抱く介護の魅力度調査 (web 調査)

#### a) 対象

福祉に専門的に学んでいない学生 319 名、18 歳から 20 歳代である。

#### b) 質問紙の質問項目、分析方法

質問項目は、介護職のイメージ、介護の体験、職業選択の基準、高齢者との同居である。介護職のイメージは、5 件法「よい」から「よくない」で質問し、一部、自由記述回答を求めた。

質問項目の単純集計し、次に、介護職のイメージ 12 項目を 5 件法で回答を得た。「よい」5 点、「ややよい」4 点、「ふつう」3 点、「あまりよくない」2 点、「よくない」1 点の点数を与え、集計をした。介護職のイメージと、介護の体験、職業選択の基準、高齢者との同居や介護で、分散の検定を実施し、t 検定にて、比較検討した。自由記述回答は、Kh コーダソフトを使って回答内容をカテゴリー化して整理した。

#### c) 属性

回答者 319 名。高齢者との同居は「同居している」が 91 名 (28.5%)、「同居していない」228 名 (71.5%) であった。介護体験は「あり」149 名 (46.7%) 「なし」168 名 (52.7%)、無回答が 2 名であった。介護体験の内は「職場体験」は 50 名、「家族・親戚の介護」49 名「ボランティア活動」45 名であった。

#### d) 調査結果

介護のイメージ 12 項目の各項目の平均を図 1、介護のイメージ 12 項目のヒストグラムは図 2 に示した。

介護のイメージで上位の項目は「やりがい」「社会的評価」「資格専門の活用」「就職に困らない」であった。平均が 3 点未満の低い項目に「給与の条件」「休暇の条件」「勤務時間」「身体的苦痛」「精神的苦痛」であった。

介護のイメージと高齢者の同居、介護体験、職業の選択基準の「高い収入」で、比較検討した結果は高齢者の同居と職業の選択基準で、差は認めなかった。介護体験のあり群が、介護イメージ得点で差が認められ、介護イメージ得点が高い結果となった。

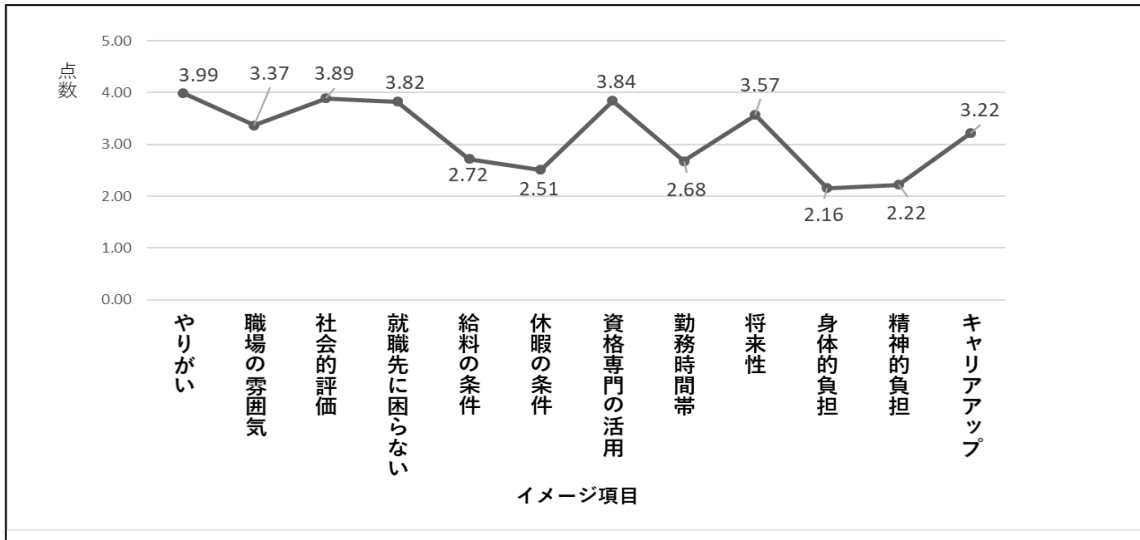


図1 介護のイメージ12項目の平均

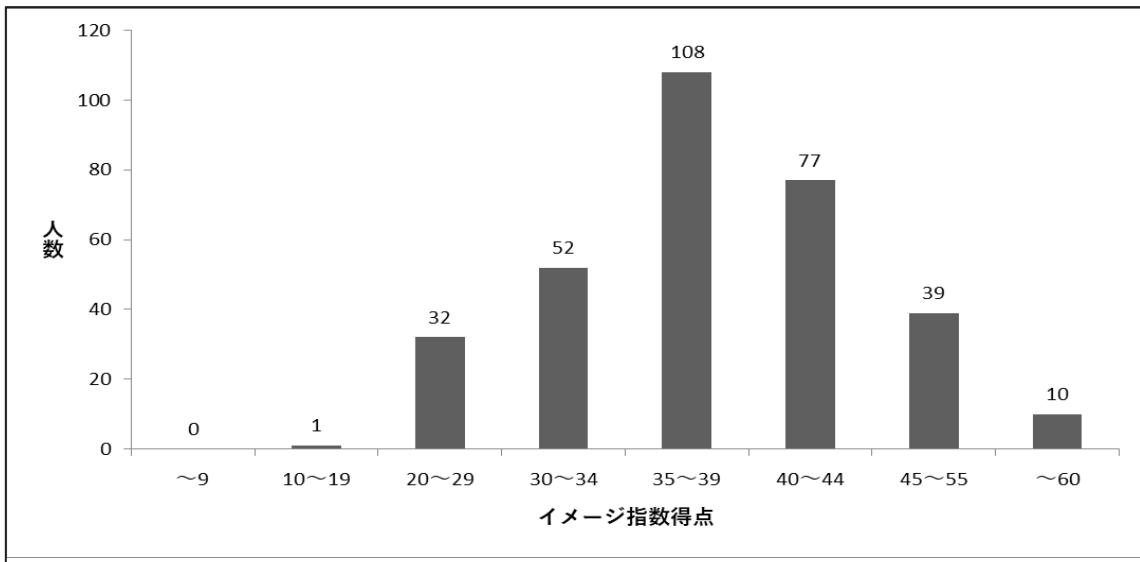


図2 介護のイメージ得点分布

次に、介護のイメージ12項目の回答の合計点の点数を高得点群(以下高群)、中得点群(以下中群)、低得点群(以下低群)にわけた。これを変数に自由記述を対応分析した。高群は41点以上111名、中群は36から40点107名、低群は35点以下101名となった。対応分析は図5に示した。高群では「助ける」「支える」「サポート」「手助け」の語があった。中群では「ストレス」「体力」「忙しい」の語があった。低群では「労働」「仕事」「負担」の語があった。介護のイメージの得点が高群では、介護の本質となることについて、介護職のイメージとして抱いていた。中群では、介護職の仕事をする中で、生じる「ストレス」や「体力」が必要なこと、介護の仕事の状況の「忙しさ」を示していた。低群では、介護を「仕事」「労働」と捉え、介護の仕事を重労働で、「負担」のあるものとしていた。低群、中群では介護のマイナスイメージに関する内容であった。

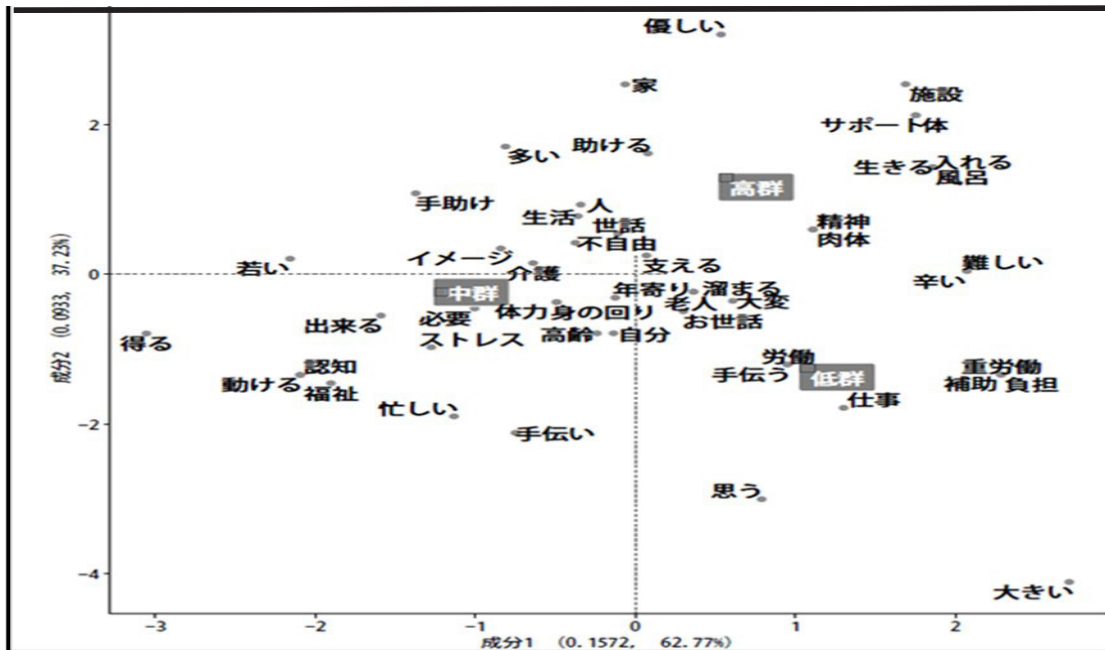


図3 介護のイメージの自由記述 対応分析

e) 考察

介護職のイメージの12項目から、総合平均が3点以上であることから、マイナスイメージが強いわけではないと考えられた。やりがいや資格・専門性を行かせる仕事であると捉え、社会的評価のある仕事であると考えていた。「賃金」「勤務体制」は低いイメージとなっていた。職業選択基準で、3割程度の学生が高収入とあったため、介護のイメージに影響があると考えたが、関係ない結果となった。介護職は低賃金であるイメージであると思われていることが考えられた。払拭していく活動が必要と思われる。リクルートの職業別調査では介護職の賃金は他の職業と比べ、差はなく、平均的なものである。また、介護職は大変な仕事で離職率が高いと思われがちであるが、これも他の職業と変わらない。超高齢社会となり、高齢者が増えたことで、要介護者が増え、慢性的な介護職不足と、混同して考えていることで起きているイメージであるとも考えられた。

介護のイメージは、介護体験をしている学生の方が、介護体験をしていない学生と比べ、よい結果であった。一般の方に、介護について、職場体験、ボランティア活動などの機会は介護のイメージをよくする一つ的手段となることが考えられる。介護体験のない学生は介護のイメージをテレビやネット等で、偏ったイメージを作りあげていることも考えられた。

人との出会いから、関わりを通して、人間理解の奥深さのある興味深い仕事であることを伝えていくことは、介護のイメージをよくする働きかけになることである。現場の人たちの声を伝えていくことは、よい試みであると考えられる。

(2) 介護職へ介護の魅力調査 (自記式アンケート、インタビュー)

a) 対象

自記式アンケートは岡崎市の高齢者施設で働く介護職の方30名。岡崎市内の高齢者施設の施設長に依頼と、介護職が介護職に紹介して頂き、協力者が増えた。インタビューは岡崎市内の高齢者施設の施設長に依頼し紹介頂き、許可を得て、動画を撮影した。

b) 質問紙の質問項目、分析方法

自記式アンケートの項目は「介護の魅力のエピソードなどを教えてください」の自由記述とした。インタビューでは「介護職に就くきっかけ」「長く続けてきた理由」「介護職をしていてよかったこと」「介護職の大変なこと」「介護職で働く人を増やすにはどんな取り組み」「介護の魅力」を尋ねた。

自由記述の文を何度も読み返し、類似内容を集め分類し、「介護の魅力の樹」の葉とした。

c) 結果と考察

介護職が記載した介護の魅力はカテゴリーに「笑顔」「発見」「成長」「出会い」「ありがとう」の5つがあがった。カテゴリーとした記述の一部を図4に示した。「笑顔」では「笑顔には笑顔が近づきます。」、「発見」では「介護の仕事に就いて17年とさめて8時間、笑わない人を笑わせた時！」

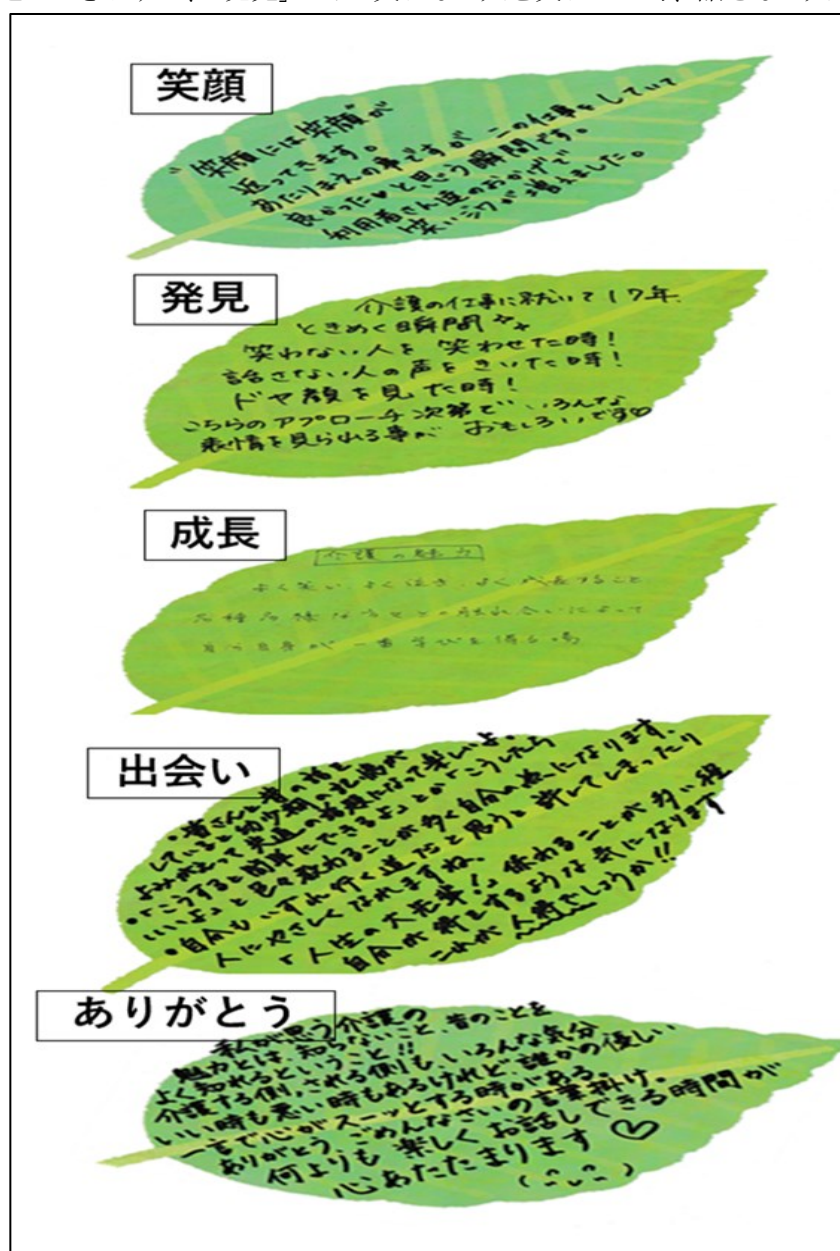


図4 介護職からの声 介護の魅力



た時>、「成長」ではよく笑い、よく泣き、よく成長、多種多様な人達と接して、自らが一番学んでいる>、「ありがとう」ではくありがとう、ごめんないの言葉の掛け・・・>であった。介護の魅力は人間関係を通して得られるものであった。

(3) 若者へ介護の理解を深める活動 ①(カードの活用、介護のキッチンフリーズ作成)

a) 対象

介護や福祉について専門的に学んでいない学生

b) 活動内容、方法

1) 「オレと親父の認知症ライフ」のカードの活用

「オレと親父の認知症ライフ」のカードはゲーム感覚で介護について、楽しく学んで、話をするきっかけになることを期待して作られた。このカードを使って、介護について深めるようにした。5人が一グループになり、わからない用語などが出てきたときは、携帯で調べ、グループで共有しながら、すすめていった。

2) 「介護のキッチンフリーズ」作成

介護のキッチンフリーズをグループで作成し、主催 全国老人福祉施設協議会 第14回介護作文、フォトコンテストに挑戦した。



図5 若者へ介護の理解を深める活動 ①(カードの活用、介護のキッチンフリーズ作成)資料

c) 結果と考察

取り組みの様子は写真1に示した。

1) 「オレと親父の認知症ライフ」のカードの活用

最後の振り返りのシートから、「介護」の言葉の使われ方の一覧を示した。「介護」は全体で27回使われていた。「介護」についての使われ方を一部紹介する。



写真 1-1 カードワークの様子



写真 1-2 カードワークの様子

### 「介護」の使われ方

- ・人生ゲームでもし親などに「介護」が必要になったときの流れや、どんなことをするのかを知ることができた
- ・「介護」の始まりから最期までの流れを知れた
- ・楽しみながら認知症になった人の「介護」の流れを知ることができた
- ・ゲームなのですが、リアルな「介護」の辛さや、危機に直面した時の助けになる施設などの知識を深めることができた
- ・特に中盤の幸せポイントの減り具合からは「介護」者被介護者ともに精神的負担の大きさを感じ取りました
- ・「介護」のすごろくがあったとは初めて知ったので驚きました。内容がとても現実的では初めて知ったので驚きました
- ・最初は人生ゲームみたいなゲームだと思っていたけれどちゃんと「介護」について考えさせられる時間になった
- ・「介護」される側の気持ちではなく介護する側の気持ちについても考える時間になった
- ・人生ゲームを実施してみて、まず、サイコロの目が最大でも4までないという点でなかなか簡単に事が進まない「介護」の難しさを実感し、何度も同じマスに戻ってし、繰り返してようやく次に進めて、難攻不落さを感じ、「介護」の重さを知りました

### 2) 「介護のキッチンフレイズ」作成

学生達がグループで検討して作成したキッチンフレイズについて図6に紹介する。発表の際には、キッチンフレイズに含める意図についても説明をしてもらった。どの作品も力が入っていた。

#### (4) 若者へ介護の理解を深める活動 ②(高齢者施設で高齢者と学生の交流)

若者へ介護の理解を深める活動として、高齢者施設を利用している高齢者との交流機会を設けることにした。予め、高齢者施設の特徴、高齢者施設を利用する高齢者の特徴について説明をし、どのようなレクリエーションを行うと楽しめることができるのか、学生達に考え、企画書を作成してもらうことにした。

学生達は季節感が分かり、脳トレ、手先を使うことができるガーランドづくりを企画した。「十二支のはじまり」の紙芝居を読んだあと、十二支のガーランドを高齢者と一緒に作成していくものと、2月の節分にちなみ、「桃太郎の鬼退治」のガーランドである。「桃太郎の鬼退治」

のガーランドは、桃太郎の歌を歌いながら、登場人物の順に並べていくものである。学生達にとり、高齢者とコミュニケーションをとるためのきっかけづくりになったと思われる。

<p>1 してくれてありがとう させてくれてありがとう</p> <p>2 温かい言葉は忘れない</p> <p>3 コミュニケーションで 人は幸せになれる</p>	<p>10 みんなでひろげよう 介護の明るい未来</p> <p>11 思いやりの気持ちを持って 温かい手をさしのべよう</p> <p>12 大切なのは君のやさしさ</p>
<p>4 介護を通して たくさんの出会いがありました</p> <p>5 お泊り会のような 介護ライフを</p> <p>6 守ってくれた私の笑顔 今度は私が笑顔にします</p>	<p>13 みんなで支える介護</p> <p>14 喜びが増えて、家族が増えて 一人ではなくなった</p> <p>15 介護で咲かせる笑顔の花</p>
<p>7 あなたのおかげで幸せです</p> <p>8 できるを増やす・幸せを贈る みんなの心のよりどころ</p> <p>9 介護のおかげで人生150年</p>	<p>16 守ってくれた大きな手 今度は私が守ります</p> <p>17 やさしさを救う、笑顔</p> <p>18 あなたを幸せにする 天使の介護</p>

図6 介護のキッチフレーズ



写真2-1 レクリエーションの  
企画・活動



写真2-2 レクリエーションの  
企画・活動



写真2-3 レクリエーションの  
企画・活動



(5) 地域の方へ介護の魅力を伝える活動（岡崎市元気館にて介護の魅力の樹、介護エッセイの提示、SNSの発信）

地域の方へ介護の魅力を伝える活動として、ゼミの学生と一緒に、介護キャラバン隊として、地域のまつり、イベントに参加し、ブースを出展していく予定にしていた。しかし、新型コロナウイルス感染蔓延化、まつりなどすべて中止となった。そのため、岡崎元気館を利用する地域の方たちに介護の魅力を広報するために、8月末と1月に展示をおこなった。8月は途中段階である介護の魅力の樹の展示を行い、1月には昔、懐かしいお菓子の紹介と一緒に介護の魅力の樹を展示した。興味を持って見て頂くための取り組みである。キッチンフリーズの展示には、気に入ったキッチンフリーズの投票も行った。

介護キャラバン隊の活動はゼミ活動の一環として行ってきた。ゼミ活動の報告として、学生フォーラムにおいて、展示発表を行った。

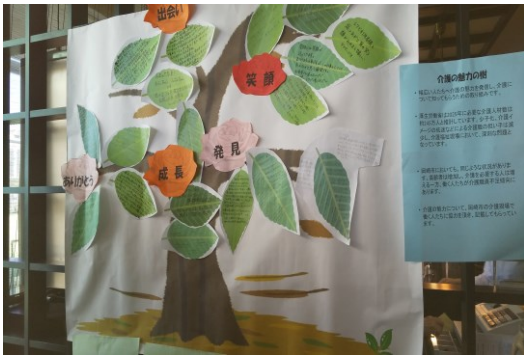


写真 3-1 展示 介護の魅力の樹



写真 3-2 展示 介護の魅力の樹

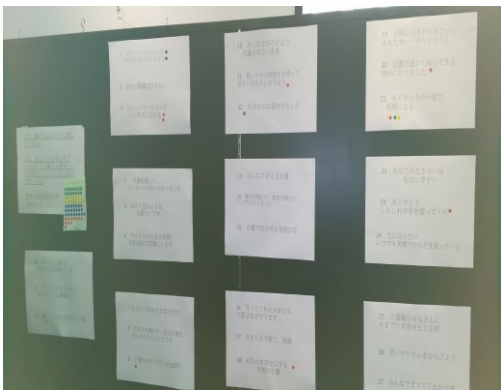


写真 4-1 展示 介護のキャッチフレーズ

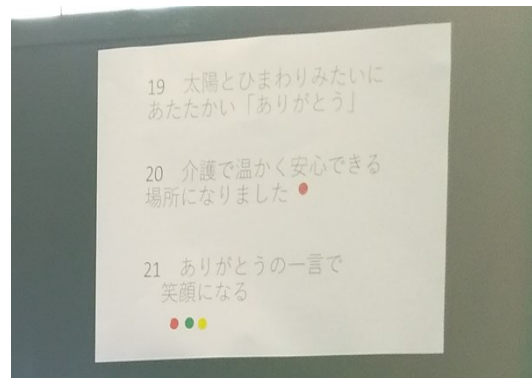


写真 4-2 展示 介護のキャッチフレーズ

## 5. 結語

介護人材の確保につながる取り組みを見出すことのために、介護についての正しい知識の普及と介護職の生の声、高齢者施設での交流の機会を作った。小学生などが参加する地域のイベントを利用して行う予定であったが、新型コロナウイルス感染の蔓延下、難しいものとなった。小学生が岡崎元気館での展示を熱心に見ている様子などあった。今後も、継続してこの課題に取り組み、幅広い年代に働きかけていきたいと考えている。

### 参考等文

- ・皆川順子、倉田郁也、前島克美、川延宗之「介護職の職業イメージに関する社会学的考察と介護福祉教育の役割」『文京学院大学人間学部研究紀要 18』、2017 年、143—152 頁
- ・公益財団法人日本介護福祉士会「介護の仕事の社会的な意義と魅力の整理とイメージアップ戦略のあり方についての調査研究報告(PDF)」、2015 年、[https://www.jaccw.or.jp/wp-content/uploads/2020/09/H26\\_hokoku.pdf](https://www.jaccw.or.jp/wp-content/uploads/2020/09/H26_hokoku.pdf)

### 謝辞

この研究は岡崎懇話会 令和3年度 岡崎における産学官共同研究助成金の交付を受けたものであります。ここに、岡崎懇話会の会長様をはじめ、深く、感謝いたします。

忙しい中、快く調査に協力いただいた岡崎市の介護職員の皆様、アンケートに協力してくれた学生達に感謝いたします。